

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：32665

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13706

研究課題名（和文）社会運動空間における「趣味共同体」に関する研究 近代東アジア社会運動を事例に

研究課題名（英文）Hobby Communities within Social Movements: A Case Study of Contemporary East Asian Social Movements

研究代表者

陳 怡禎 (CHEN, IChen)

日本大学・国際関係学部・助教

研究者番号：30845722

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「社会運動研究」や「ファン研究」の両面から、東アジアの社会運動空間において、参加者（なかでも特に女性）はいかに「戦略/戦術」的に趣味を実践し、またその「趣味」を通して、社会に変革をもたらしつつ自らの社会的位置付けを調整しているのかを明らかにすることである。本研究は、以下の研究成果を示した：第一に、社会運動に参加している台湾や香港の若者は、社会運動空間において、「内向き」のコミュニケーションを行い、情動を生成しながら社会運動に意味を付与した点である。第二に、台湾や香港の若者が「意識的に」周縁に自らを位置付け、また周縁の対抗性を生み出している点である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の研究成果は、以下の2点の学術的意義や社会的意義を持っている。第一に、本研究は、台湾や香港の若者は、自ら日常的に実践しているサブカルチャーや流行文化を用いて政治に参入することを通して、「政治」に新たな意味を付与したことを明らかにした。第二に、社会構造の中の既成的権威に排除されたゆえに、社会運動に参加し異議を申し立てたとされる運動参加者は、真正面から権威に対抗を示すのではなく、「周縁」にとどまる選択を行い、その周縁において日常的趣味実践を通して、自らの存在を可視化しながら、中心的権力を周縁から少しずつ分散させる、という「戦略/戦術」を実行している点である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to investigate how participants, particularly women, in social movement spaces in East Asia strategically practice their hobbies to adjust their social positioning and effect societal change. The findings reveal that young people from Taiwan and Hong Kong engage in introversive communication within social movements, ascribing significance to the movement and eliciting emotions. Furthermore, they deliberately position themselves on the periphery and strive to deconstruct established authority structures from that standpoint.

研究分野：社会学

キーワード：ファン研究 社会運動 台湾 香港 趣味共同体研究 東アジア サブカルチャー

1. 研究開始当初の背景

研究者は修士課程以来、ファン研究やサブカルチャー研究を中心に研究を進めてきた。2014 年に出版した『台湾ジャニーズファン研究』(青弓社)では、台湾において活発に行われるファン活動に熱心な女性ファンたちを研究対象としており、彼女たちが、アイドルを通して、理想的な親密関係を構築しようとする点について分析している。

研究者の書籍が出版された年に、台湾のひまわり運動や香港の雨傘運動が行われ、台湾や香港社会に大きな衝撃を与えた。さらに言えば、それらの運動をきっかけに、台湾や香港の社会文化や政治の方向性が大きく変わっていた。

2つの社会運動が始まって以来、社会運動論や政治学、国際関係などの視座より分析されてきたが、研究者はカルチュラル・スタディーズの側面から、以下の2点に注目して研究を進めることにした。

第一に、近年では、ユーモアセンスが溢れる「新しい社会運動」、または、「新しい文化 = 政治運動」(毛利 2003)が潮流となっているなか、台湾や香港の社会運動参加者は、さまざまな文化を用いて運動参加者間のコミュニケーションを図っていた点である。社会や政治に変革をもたらすことを目的とした社会運動のため、シリアスな抗争場面もしばしば見受けられていた。しかしながら、それらの社会運動参加者は、自分自身の「遊び/趣味 = 日本に起源したアニメ、漫画やアイドル文化などのサブカルチャー実践」を通して、対抗性を表現していた点である。その点は、従来の台湾や香港、さらにいえば東アジアの社会運動や政治活動のなかでも特徴的であった。

第二に、近年では欧米の先行文献における趣味共同体 = ファンカルチャー研究は、ファンダムと政治の接点について考察する研究はあるが、東アジアでは、「趣味共同体」研究と「政治共同体」研究とは、異なる学術領域で行われる傾向があった。つまり、「趣味」は一般的に私的領域において実践されるものとカテゴリー化され、その反面、社会運動は「公的領域」に属していると判断されている。しかしながら、本研究が主に注目する台湾のひまわり運動や香港の雨傘運動をはじめとする現代の東アジアにおける社会運動では、参加者は自らの日常的趣味を社会運動や政治運動に持ち込んで実践することを通して、社会変革を果たしている。このようなファンダムによる社会運動や政治への介入は、検討すべき点である。

以上のような状況を踏まえて、研究者は、こうした台湾や香港の若者たちによる、社会運動空間における趣味文化の実践に着目し、若者(なかでも特に女性)は、いかに「戦略/戦術」として日常的趣味を用いて、政治運動に参入し、自らの趣味共同体の可視化に働きをかけているのか、を考察しようと考えたことが、本研究の着想に至った背景である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、社会運動空間において、参加者(なかでも特に女性)はいかに「戦略/戦術」的に趣味を実践し、またその「趣味」を通して、社会に変革をもたらしつつ自らの社会的位置付けを調整しているのか、を明らかにすることである。

研究者は、2019年、科学研究費助成事業(研究活動スタート支援/課題番号:19K23275/課題題目:『社会運動を語る女性たち:台湾ひまわり運動・香港雨傘運動における文化実践を事例に』)を取得したため、その研究成果の一部を踏まえた上で、本研究を開始させた。その研究から得た知見としては、社会運動に参加する女性たちは、社会運動空間内部に、「運動リーダーをアイドル化して追っかける」や、「運動リーダーのカップリングゲーム」といった日常生活でも実践された「ファン文化」を導入していた事実を挙げるができる。

以上の調査成果を踏まえ、本研究はファン研究領域の先行文献を整理した上で、趣味共同体 = ファンコミュニティ研究と社会運動研究の両面から、東アジアの社会運動における趣味共同体の実践やその実践によって生成された「対抗」を明らかにすることを目的とする。

従来のファン研究では、ファンに対し「社会空間から逸脱し、独自の関係性を作る社会的他者」といった言説が主流となっている。言い換えれば、趣味縁を中心に繋がるファン・コミュニティは、公的空間から離れた場所で私的趣味を実践する存在だと定義されている。その一方で、2000年代以降に、欧米のファン研究領域では、まだ初期段階に留まっているものの、趣味実践の政治性について考察する先行文献の蓄積があった。例えば、ヘンリー・ジェンキンス(Jenkins 2006=2021)は、能動的なファン文化実践は、これからの市民社会と民主主義を築く可能性があると指摘している。

上記のようなファンダムと政治との関連性に注目する考察は、東アジアの趣味共同体 = ファン研究では、管見の限りにまだ少なかったと言える。しかしながら、前述したように本研究がとりわけ注目する台湾や香港の社会運動に参加している女性は、公的領域では可視化されにくい私的領域で実践される趣味をあえて社会運動空間に持ち込んでいた。さらに、彼女たちは、単なる「遊び」として趣味を実践するのではなく、趣味を通して公的空間での発言権を奪還しようとしていることが観察される。つまり、「ファン」は趣味というコンテンツを消費する受動的な存在ではなく、趣味実践を用いて社会的関係性を生産し構築する能動的な存在なのである。よって、

本研究はこのようなファンの能動性に焦点を当て、ファンは果たして“遊び”(=趣味実践)を通してどのような「発話」を行なっているのか、さらにその「発話」を通してどのように既成的規範や権威に異議を申し上げているのかを検討する。

以上のように、本研究がそれらの社会運動空間に行われる参加者による日常的「趣味」実践に焦点を当て、社会運動と趣味文化実践の接点について議論を提起し、社会運動研究に新しい研究の切り口を提案していくことを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は主にフィールドワークを中心に研究を実施した。研究期間の初期段階では、新型コロナウイルスの影響で海外渡航ができなかったため、台湾や香港への現地訪問の実現が困難な中、テレビ電話を利用したインタビュー調査(10名)、デジタルアーカイブでの分析、新聞記事などの2次資料の収集や分析など、マルチな手法を用いて研究を遂行した。また、新型コロナウイルスの影響が緩和された2022年に台湾を訪問し、社会運動が行われた場所を訪れ、現地で10名の参加者(なかでも特に女性)にインタビュー調査を実施したほか、現地の「日本サブカルチャー」を消費する趣味共同体が集う場所にも訪れ、フィールドワークを実施した。

社会運動における趣味実践に対して考察を行う一方、本研究は、ファンカルチャーの政治性を明らかにするため、日本のサブカルチャーを愛好するファン(12名)にもインタビュー調査を実施し、ファン活動に内包された政治性や対抗性を明らかにした。

4. 研究成果

本研究は、主に以下の2点の研究成果を示した。なお、一部の成果は、2019年度研究活動スタート支援『社会運動を語る女性たち：台湾ひまわり運動・香港雨傘運動における文化実践を事例に』(課題番号19K23275)と共同的に実施し得られたものである。

第一に、社会運動に参加している台湾や香港の若者は、社会運動空間において、口頭での発話のみならず、文字、身体などを用いて、「内向き」のコミュニケーションを行い、情動を生成しながら社会運動に意味を付与した点である。すなわち、社会運動参加者コミュニティ外部の人々を巻き込むべく、彼らは様々な“宣伝物”を創り出したが、このような動きは、確かに社会運動の影響力の拡大を果たした。その一方で、本研究が調査した結果として、参加者たちは「注目」を集めるために「外向き」のコミュニケーションを行いながらも、彼らは「なぜ自分が社会運動に参加していたか」「社会運動に参加した後の生活の変化」など、自らの「日常」についての語り参加者同士の間で共有する傾向が強く表したことがわかった。つまり、本研究で明らかにしたのは、台湾や香港の若者たちは、「内部向け」のコミュニケーションをより重視し、さらにこうした「内部向け」のコミュニケーションを通して、参加者同士互いに「日常」を共有し、情動を生成していたと考えられる。

また、本研究にてとりわけ注目したのは、台湾や香港の社会運動参加者が自らの日常に関する語りを社会運動空間という出来事の場において共有し、そこから情動を生み出したが、そのような社会運動の場で生成された「情動」の様態は、従来の社会運動における情動に関連する研究が指摘しているものと異なるものだ、という点である。これまでの社会運動や政治活動において重視されてきた、「出来事」に触発されて生成した「情動」とは、憤怒や情熱など、社会運動の推進を促す“効果”を持つものだった。しかしながら、本研究が注目する台湾や香港の社会運動の場において参加者は、例えば、社会運動の“目的”(何を变革するのか)や“動機”(何のために社会運動に参加したのか)など、同一の目標に向かって憤怒や情熱といった情動を共有することを最重要視するわけではない。元々異なる社会背景や日常を持って集結した彼らが、各々の日常実践によって生成した「情動」を、社会運動の場に持ち込んで「運動参加者」というコミュニティ内部で交換し、共有することを重視している。さらに言えば、前述したように、これまで政治や社会活動における情動が論じられる際には、“出来事”である社会運動の対抗対象に対する「怒り」や「情熱」が注目されてきた。しかしながら本研究が注目する台湾や香港の社会運動の場で共有されている情動は、それだけではなく、さらに多く共有されているのは、「感謝」や「気遣い」という「ケア」という性格に基づく情動である。さらに、こうした情動の向く先は、「社会運動参加者」というコミュニティの内部である。

第二に、台湾や香港の若者が「あえて」周縁に自らを位置付け、また周縁の対抗性を生み出している点である。本研究は、研究対象の範囲の拡大を試み、社会運動研究の視座より、「社会運動の参加者」、そして「ファン研究の視座より、「ファン活動の実践者」、さらに「両面の視座より、「趣味実践を行う社会運動参加者」といった3つの研究対象に焦点を当て、研究を進めていった。若者による趣味実践は、公的空間から排除された「私的/周縁的空間」で行われるものとして捉えられてきたが、本研究の調査結果として、実際、若者は能動的・意識的に、既成的規範によって構築されている社会構造のなか、「中心」から離れている「周縁」に留まり、趣味を実践していることを明らかにした。すなわち、本研究がとりわけ注目する東アジアの若者(なかでも特に女性)は、「趣味」を一種の手段として、能動的に“私”に属する空間を創出しようとしている。さらに、このような趣味実践空間の中で、彼らが緩い結合を目指し、「周縁」という位置づけに意味を見出し、さらに、その周縁性を逆手にとって異議を唱えられる空間を確保す

ると考えられる。

具体的には、社会運動の参加者は、「趣味」を用いて、「社会運動」言説を構築するのではない。彼らは、公的領域では可視化されにくい、私的領域で実践される趣味をあえて社会運動空間に持ち込んでいた上で、「社会運動」言説からかけ離れていた“趣味・遊び”の言説を「権威に対する対抗」的言説に転換し、さらに運動参加者コミュニティ内部の「政治について語る」する権力を奪還したと考えられる。つまり、社会運動に参加する台湾や香港の若者にとって、「趣味」を副次的なものとして捉えておらず、むしろ創造的・中心的なものとして認識している。

この点は、本研究の考察を通して得られた最も重要な知見だと言えるだろう。つまり、社会構造の中の既成的権威に排除されたゆえに、社会運動に参加し異議を申し立てる運動参加者は、真正面から権威に対抗を示すのではなく、「周縁」にとどまる選択を行い、その周縁において日常的趣味実践を通して、自らの存在を可視化しながら、中心的権力を周縁から少しずつ分散させる、という「戦術／戦略」を実行していると考えられる。

以上で得た知見を基にした研究成果は、雑誌論文7点、MISC2点、学会発表12点、図書3点（報告書の第5項を参照）がある。また、それらの研究成果に基づき、学位論文（タイトル：『東アジアの社会運動とサブカルチャー実践 台湾ひまわり運動・香港雨伞運動を事例に』）を完成し、博士学位を2023年に取得した。

さらに、本研究で得た知見を踏まえた上で、研究者は、2023年度基盤研究C『「周縁にとどまる」という対抗戦略をめぐって：社会運動における趣味実践に関する研究』（課題番号23K01734）研究費を取得し、上記で示した研究成果である「政治面における対抗」や「文化面における対抗」、「ジェンダー面における対抗」について研究を深化させ、「社会運動以前と以降」（時間軸）や「諸国との共振」（空間軸）を俯瞰する発展的研究を図っている。

具体的に本研究は、主に台湾や香港の社会運動に焦点を当て、事例研究を行い、社会運動と趣味文化実践の接点について議論を提起し、社会運動研究に新しい研究の切り口を示したが、以下の課題がまだ残されていると考えられる。それは、東アジアにおける「趣味実践／ファンカルチャー実践」の共振についてより全面的な考察が必要だという点である。

そのため、研究者は、本研究で得た知見を用いて、今後は、「社会運動の以前と以降」（時間軸）や「アジア諸国との共振」（空間軸）を俯瞰する発展的研究を行ない、地政学的な視点から、東アジアにおける大衆文化流通に焦点を当て分析を行うことで、より高い水準の成果を生み出し、社会貢献性を高めたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 陳 怡禎	4. 巻 43
2. 論文標題 異郷における社会関係性の再構築 - 日本在留台湾人女性趣味共同体を事例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際関係学部研究年報	6. 最初と最後の頁 65～76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15006/ir0100043006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大尾 侑子 , 陳 怡禎	4. 巻 45
2. 論文標題 貢献 するファンダム デジタル空間における日本 / 台湾アイドルファンの実践を事例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ソシオロゴス	6. 最初と最後の頁 158,175
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 陳怡禎 , 大尾侑子	4. 巻 176
2. 論文標題 不只是鍵盤追星 傑尼斯偶像網路時代下的台日粉絲活動比較與粉絲的自我價值建構	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化研究季刊	6. 最初と最後の頁 73,91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 陳怡禎	4. 巻 10
2. 論文標題 社会運動空間における『女性の遊び』－台湾ひまわり運動を事例に－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 女子学研究	6. 最初と最後の頁 25,34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 陳怡禎	4. 巻 41
2. 論文標題 社会運動空間における女性参加者のあり方 台湾ひまわり運動を事例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際関係学部研究年報	6. 最初と最後の頁 43,53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陳怡禎	4. 巻 -
2. 論文標題 東アジアの社会運動とサブカルチャー実践 台湾ひまわり運動・香港雨傘運動を事例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学 (博士学位論文)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陳怡禎	4. 巻 45
2. 論文標題 ポピュラーカルチャー実践の公共性: ファン実践によるギャップの補填と攪乱	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本大学国際関係学部生活科学研究所報告	6. 最初と最後の頁 11,17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 アジアの政治運動とサブカルチャー実践問題提起 (ネットワーク社会研究部会ワークショップ)
3. 学会等名 日本メディア学会 2022年春季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 台湾の大衆文化から見る 若者“本土意識”の構築
3. 学会等名 北東アジア学会静岡地域研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 台湾映像作品における女性表象
3. 学会等名 2022年北東アジア学会 第28回学術研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 ポピュラーカルチャー実践の公共性：ファン実践によるギャップの補填と攪乱
3. 学会等名 日本大学国際関係学部 生活科学研究所シンポジウム 『ウクライナ問題が日本の生活に与える影響～SDGsの観点から～』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 東アジアの政治運動とサブカルチャー実践
3. 学会等名 日本大学Web研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 台湾ひまわり運動における “ アイドルファン ” 現象
3. 学会等名 表象文化論学会第15回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 台湾ひまわり運動・香港雨傘運動における 「対話」と「情動」
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 社会運動を「語る」 - 台湾ひまわり運動における「内向的コミュニケーション」に焦点を当てて-
3. 学会等名 北東アジア学会関東地域研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 社会運動を語る女性参加者 - 社会運動空間における「趣味共同体」に関する研究 -
3. 学会等名 日本マス・コミュニケーション学会 2020年春季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 社会運動空間における「女性像」に関する考察 - 台湾・ひまわり運動を事例に
3. 学会等名 北東アジア学会第26回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 「かわいい社会運動」の作法 - 社会運動参加者による「語り」の意味を考察することを通して
3. 学会等名 日本マス・コミュニケーション学会 2020年秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 「かわいい」社会運動の作法 台湾ひまわり運動における趣味共同体を事例に
3. 学会等名 第93回日本社会学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 陳怡禎・大尾侑子
2. 発表標題 傑尼斯偶像網路時代下の粉絲消費新模式 傑尼斯迷網路使用之台日比較
3. 学会等名 (台湾)文化研究學會年會
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 東アジアの政治運動とサブカルチャー実践
3. 学会等名 日本大学Web研究発表会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 田島悠来 (編集, 著), 上岡磨奈 (著), 石井純哉 (著), 香月孝史 (著), 青田麻未 (著), 関根禎嘉 (著), 大尾侑子 (著), 陳怡禎 (著), 松本友也 (著), 中村香住 (著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 アイドル・スタディーズ	

1. 著者名 遠藤 薫編 (遠藤薫、木本玲一、田頭慎一郎、中田喜万、大山昌彦、周東美材、塚越健司、大尾侑子、陳怡禎)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 戦中・戦後日本の 国家意識 とアジア	

1. 著者名 山崎敬一 , ビュールクトーヴェ , 陳海茵 , 陳怡禎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 埼玉大学教養学部・人文社会科学研究科	5. 総ページ数 306
3. 書名 埼玉大学教養学部 リベラル・アーツ叢書14 観客と共創する芸術 II	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------